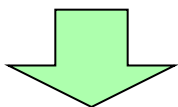


北九州市(小倉地区)中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年7月～26年3月)

※ 期間延長適用後

【中心市街地を巡る状況】

- 全国有数の工業地域、古くから九州の玄関口として発展。
市域を越えた広域経済圏を形成し、産業都市北九州市における都市機能・地域経済の中核を担う。
- 従来型の重厚長大産業の低迷。
→ 事業所従業者数の低下や来街者数の減少等に伴い、中心市街地は衰退傾向。特に産業都市として働く場の衰退に大きな懸念。

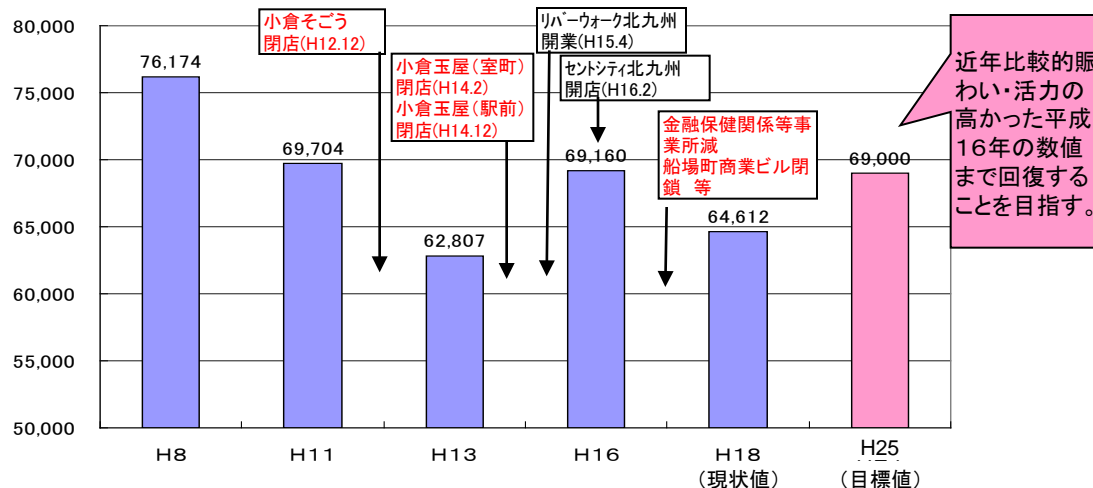


【目標】

目標	指標	現況数値	目標値(H25)
屋間人口の拡大による活力向上	事業所従業者数(民営)	64,612人(H18年)	69,000人(6.8%増)
広域商業拠点の賑わいの向上	商店街エリアを中心とした歩行者通行量(主要11地点の合計値)	146,958人/日(H19年)	177,000人/日(20.4%増)
	既存の主要大規模商業施設の年間来店者数	約48,695,683人/年(H18年度)	52,000,000人/年(6.8%増)
文化的で非日常的な都心の魅力向上	主要な歴史・文化・コンベンション施設の年間来場者数	約165万人/年(H18年度)	197万人/年(19.0%増)

(人)

事業所従業者数の推移と数値目標



○ 事業所従業者数(民営)の減少

H8: 76,174人 → H18: 64,612人 (▲15.2%)

○ 歩行者通行量の減少

(エリア内主要調査ポイント11地点における土日月の平均の合計値)

H10: 224,694人/日 → H19: 146,958人/日 (▲34.6%)

日本有数の工業地帯の中心である市街地として再開発ビルの整備などにより、創業支援機能を含めた業務都市機能を強化していくとともに、都市環境や商業の利便性、文化交流にも配慮し、産業空間と都市空間が調和するまちづくりを進める。

北九州市(小倉地区)中心市街地活性化基本計画の事業概要

従業者数の拡大による活力の向上

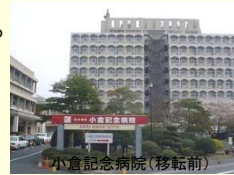
○小倉駅南口東地区市街地再開発

小倉駅南口東地区に業務・商業・サービス機能を備えたビルを整備し、企業誘致や就業の場の創出を図る。



○小倉記念病院新築移転

都心エリア外に立地する既存の広域医療施設の老朽化に伴い小倉駅北口に移築し、市民の利便性を向上すると共に新たな就業の場の創出を図る。

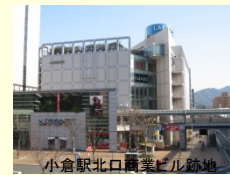


○創業・就業支援

北九州テレワークセンターでITベンチャー企業に対しオフィスを提供し創業支援を図る。また、若者パークプラザで若年層を対象に就職相談、職業紹介、情報提供といった就業支援を行う。

○小倉駅北口商業ビル再生

小倉駅北口の空きビルに日用雑貨店を中心とする商業集積により集客・回遊性向上を図るとともに、新たな就業の場の創出を図る。



○チャチャタウン小倉2期開発

チャチャタウン小倉に商業施設、バス営業所等を設置し、利用者の利便性向上を図るとともに就業の場の創出を図る。



商業の活性化による賑わいの創出

○魚町銀天街ショッピングモール化

国道で分断されている小倉都心のメインストリートにある二つの商店街をつなぐ国道上のアーケードの新設を行い一つのショッピングモールとして回遊性を高める。



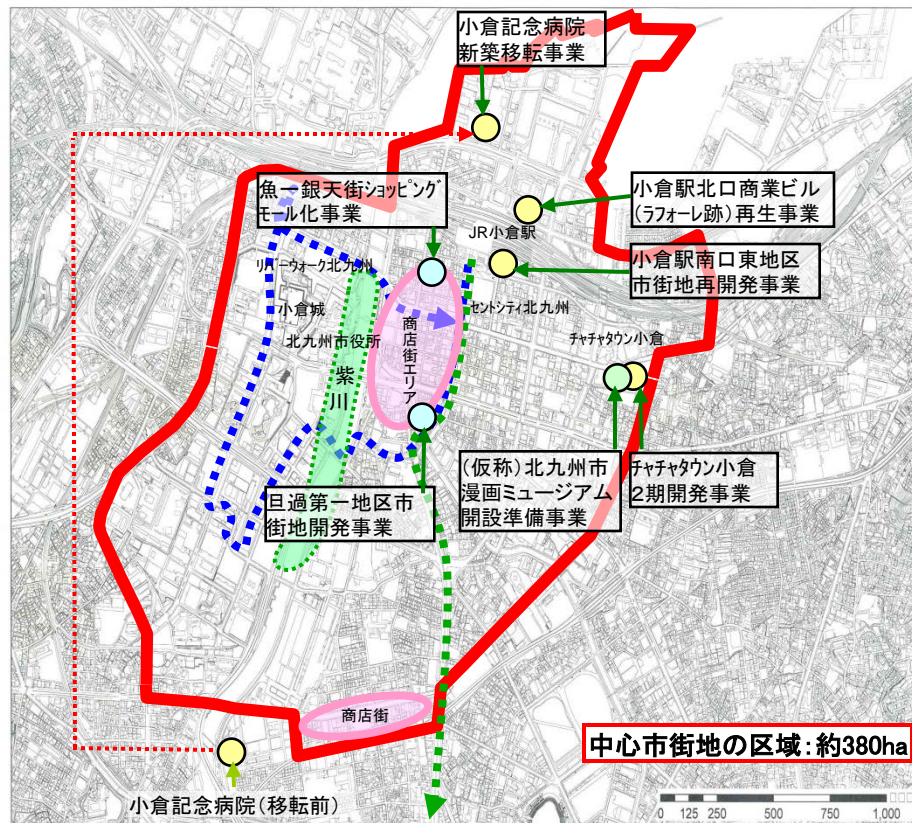
○旦過第一地区市街地再開発

市民の台所として長年親しまれて来た旦過市場の老朽化した木造建築を現状の雰囲気を残しつつ再生し、市民の利便性の向上を図る。



○環境に配慮した移動環境作り

100円で周遊バス(…線)やモノレール(…線)を一駅間利用できたり、高齢者への電動カート貸出し、自動車から公共交通や自転車の利用転換など環境に配慮した移動環境を構築する。



歴史・文化振興による賑わいの創出

○漫画ミュージアムの開設

松本零士など地元ゆかりの漫画家を中心に漫画作品等を収集した九州初の総合的な展示施設を開設し、賑わいを創出する。



○地域資源を活用した賑わいの創出

紫川の水辺環境や小倉城周辺を中心とした歴史・文化施設を活用した四季折々のイベントにより賑わいを創出する。

